

教員養成の目標及び目標を達成するための計画

本学の教員養成の目標と方策

桜美林学園の建学の精神は、「キリスト教主義の教育によって、国際的人物 (International Character) を養成するをもって目的とする」と、本学園の「寄附行為」に込められている。創立者清水安三、郁子夫妻の教育実践は、民族の尊厳を重んじつつ、個性が尊重され、国際的人材の育成を目標とした教育であった。この「国際的人物の養成」とは、社会の中の不合理に対してキリスト教的奉仕、すなわち「学びて人に仕える」人材の養成を意味している。

本学の建学の精神はそのまま本学の教員養成の理念であり、本学に教職課程を設置することは本学のミッションともいえる。本学の教員養成の目標は、キリスト教的精神に基づき、自己の教育実践の課題を自発的に発見し教師として常に向上を願い努力する自律的な教師の育成、そして一人ひとりの個性が尊重され、高次の専門性と奉仕の精神をもった豊かな教員の育成である。本学の教員養成の目標の基底は、本学の建学の精神の具現化である。

本学がめざす教員養成教育を大学教育の中で可能とするために、以下 4 つの視点が必要であると考えます。

- ① 指導する組織基盤の充実
- ② 自発的な学習を促す多様な教育プログラムの提供
- ③ 学生の個性に即した指導
- ④ 卒業生教員への支援

本学が目標とする教員養成をより現実のものとする方策として、現在以下のような具体的な計画を推進し取り組んでいる。

- ① 指導する組織基盤の充実
〈大学全体の協力に基づく組織と運営〉

全学教職課程委員会は大学副学長を始め教職課程認定の学群より教科ごとの代表者、併設校教員、図書館長など学園全体によって組織される。また、資格・教職センター教員と職員が一体となって協議・運営する全学教職課程運営委員会を通じて教職課程を運営している。なお、課程のある学群の教員の協力によって、教育実習中の訪問指導を実施しており、その際の訪問の報告も義務づけられ、実習中の課題を全学で共有し、学生指導をより改善できる仕組みとなっている。

〈教職員の力量形成〉

資格・教職センター教職員の学外研修への積極的な参加により、各自の専門領域の学術上の向上を奨励している。

非常勤講師、兼任教員などを含む全学の教職関係科目担当者を対象としたFD、さらには職員を含めた SD を開催している。授業実践や組織運営の課題を共有し、共通認識を持ちつつ教職員がそれぞれの教育実践や組織運営の改善に臨めるよう配慮している。

〈他大学、教育委員会との連絡・協働〉

大学間の教職研究連絡機関や教育委員会との協働推進委員会等に参加し、現在の教職教育及び学校現場の課題や情報を得るとともに、本学の教職課程教育を検証し、改善に努めている。

② 自発的な学習を促す多様な教育プログラムの提供

〈教育実践を配慮した学習機会〉

教育実習、介護等体験の事前指導においては、卒業生教員、中高の教員、その他社会福祉協議会、教育委員会、などから専門家を招聘してプログラムを企画、運営している。

〈多様な教育機会の提供〉

学年別課題読書制度を設け、学生が読書を通じて教職への理解を深める取り組みを行っている。各学年の課題は、「創立者から学ぶ」、「日本の教師から学ぶ」、「授業を創る」であるが、学年ごとに 100 冊程度の書籍を選書して教職指導室に配架している。読後感想文は担任が読み、添削などの指導を行っている。

教育ボランティアの説明会、面接、報告書の提出などによって現場での自発的な活動を支援している。

教職の実現のために年数回の教員採用試験対策講座を開設して、論文指導等を行っているほか模擬試験を実施している。

教職課程登録者が利用できる教職指導室が設置されており、本学出身の教職経験者等を配置して学生の指導に当たっている。また、模擬授業に使用できる教職演習教室は黒板、電子黒板、デジタル教科書を備え、中学校・高等学校の教室を模した配置となっている。

横浜市短期インターンシップにも参加する機会を提供している。

③ 学生の個性に即した指導

〈個性尊重の教職履修制度・個別指導〉

本学リベラルアーツ学群・芸術文化学群・健康福祉学群の 3 学群ではより広範な科目の認定課程を設置している。現在、取得できる免許教科は、中・高 1 種課程、国語、社会、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、情報、英語、中国語*である。（*中国語は 2025 年度以前入学生のみ履修可）

また、本学では全学的なアドバイザー制度を通じ、教員との密なる連絡により学生一人一人を支援する体制を取っている。加えて 2 年生から教職課程に登録した学生に対しては資格・教職センター教員のクラス担任制もとられ、卒業時まで持ち上がりにして、一貫した学生指導を実施している。「履修カルテ」を媒介としてクラス担任による頻繁な面談が実施され、それぞれの学生の個別な学習上の問題点を把握して指導を行っている。

④ 卒業生教員への支援

〈卒業生支援と在籍学生への多様な教育機会の提供〉

卒業生教員の研修、交流の場として「卒業生教員研究交流会」を実施している。また同会開催により、在籍学生も参加して現場や教職への理解を深める機会となっている。